

主の降誕（夜半のミサ）

第一朗誦 イザヤ 9・1-3、5-6
第二朗誦 テトス 2・11-14
福音朗誦 ルカ 2・1-14

2025.12.24 17:00 ミサ
カトリック高円寺教会
主任司祭 高木健次神父

皆さん、主のご降誕おめでとうございます。

このように毎年クリスマスのお祝いを教会でお捧げすることができる、その恵みに感謝したいと思います。

毎年、教会は、救い主が、神の独り子が人となってこの世にお生まれになったということを記念します。そして記念するだけではなくて、まさにそれを思い出すの中に恵みがあるのだと信じて集まっていると思うんです。神様が、ご自分の幸いな状態だけにとまるのではなく、わたしたちをもその中に迎え入れるために、ご自分の方からわたしたちの中に、まさに自分自身がプレゼントとなってやってきてくださったんだ。ご自分の命そのものを与えるためにプレゼントとなってやってきてくださったという姿が、この幼子の、飼い葉桶の中に布にくるまれて眠っている幼子のお姿ということなんだと思うんです。

神様がご自分をプレゼントとして渡してくださる。そこから、わたしたちも少しでもその神様の気持ちを自分の気持ちとして、他の誰かのために何かできるかな、どのようなプレゼントを、神様にならうっていうか、そのためにお互いにプレゼント送り合うことがあるわけですね。

子どもたち——今日いっぱい来てますけど——サンタクロースを待ってる子どもたちもいると思いますけども、サンタクロースもやっぱり、神様、イエス様が自分をプレゼントとして渡してくださったその思いに自分も少しでも近づくためにはどうしたらいいだろうって、世界中の子どもたちにプレゼントを届けるっていうそのことを目標にしてやってるわけですね。少しでも神様に近づきたいと思うならば、まさに

人の力を超えたようなすごい力を得るし、またいろんな人が協力するということなんだと思うんです。

だから、そういう意味では、子どもたちにサンタクロースがプレゼントをするっていうのは、神様とサンタクロースの間の問題であって、「サンタクロースに何頼むの?」とか、「これじゃない方が良かった」とか、そういうのは違うんですよね。それは、たとえば、自分の心をいつも整えるために公園とか町でゴミ拾いをしている人がいたとして、「あなたゴミ拾いが大好きなんですね。じゃあここにゴミを捨ててあげるから、嬉しいでしょう」みたいに言ってるのとちょっと似てるんですね。

サンタクロースは自分も少しでも神様のように生きるために、子どもたちにプレゼントするってのを目標にしてやってる。だから、ほんとは、「じゃあ、わたしたちもサンタクロースのように、自分は他の人のために何ができるのか」という、あるいは「何をプレゼントできるのかな?」って考えるのが本来のというか、人の心の中にある善意に出会って、そして善意がずっと繋がっていく、平和への道と言うことができます。

他人の善意を通して何か利益を得ようとする、つけ込む——つけ込むというまでとは言わなくてもね——そういうことではなくて、善意を模範にして、自分の中にも少しでもならっていこうとするならば、まさに毎年わたしたちがお祝いしている、ご自分を人類へのプレゼントとして渡された幼子イエス様の恵みがずっと伝わっていくということになるんだと思います。それが平和の道。善意を利用して自分が利益を得ようとするならば、そこで恵みの伝達はストップする。あるいは逆に悪い心が広がってしまうかもしれないんです。

だから、わたしたちは人からいただくいろいろな良いもの、プレゼントに本当に感謝して受け取りつつ、そこから影響を受けて、わたしたちは心の中に、「じゃあ、わたしたちは次に何ができるのか」ということを絶えず考えることを通して、イエス様の心をわたしたちの心としたい、その願いをいつも持ち続けながら、そしてその時に、わたしたちは今までの自分自身を超えた、はるかに超えた力を得るのだというのが、人間であるはずのサンタクロースが空を飛んでいる、その姿に見ることができるんじゃないかなと思います。

わたしたち自身がそれぞれ、今日お生まれになった幼子の心を一人ひとりの中に受け入れることを通して、平和の道、神の国の広がりをまさにストップすることなく

あかいしひと
証人となっていくことができますように、それぞれの中に幼子の恵みを願い合いたいと思います。

ミサ説教はカトリック高円寺教会ホームページの「ミサ説教」のページにも掲載されています。

PC http://www.koenji-catholic.jp/cgi-bin/wiki/wiki.cgi

携帯 http://www.koenji-catholic.jp/mobile/